

富医ニュース

No.587 令和2年9月1日

一般社団法人 富田林医師会
会長 宮田 重樹
〒584-0082 富田林市向陽台1丁目3-38
TEL.(0721)29-1210 FA X.(0721)28-0858
E-mail : mail@tondabayashiishikai.jp

医師会創立70周年記念式典 中止のお知らせ

富田林医師会創立70周年記念式典を昨年度から準備し、本来なら5月23日にザ・リッツ・カールトン大阪で執り行う予定でした。しかし、4月7日大阪府が緊急事態宣言の対象地域となったため、延期しました。

5月21日に緊急事態宣言が解除されて感染者も減少していることより秋ごろには落ち着いているのではと期待して11月に開催できるように準備を行ってききましたが、7月以降感染者が増え続け、第1波を上回る感染者数となり、大人数での会食を控えるようお達しがでています。

現状を鑑み、年度内に新型コロナウイルス感染が落ち着くとはとうてい考えられないため、理事会で医師会創立70周年記念式典中止することを決めました。

記念式典は執り行いませんが、70周年記念誌は発行する予定です。会員のページに先生方の顔写真を掲載する予定ですので、お気に入りの写真を広報委員会にご提出お願いします。

ご理解のほど、宜しくお願い致します。

新型コロナウイルス感染症 対策研修会

令和2年8月1日(土曜日)すばるホール銀河の間で富田林保健所所長永井仁美先生から『新型コロナウイルス感染症拡大期の管内の対応の振り返りと今後について』御講演頂きました。

COVID-19の基本的な臨床像として発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠感が主な症状ではあるが、10%未満の報告で下痢や嘔吐の消化器症状もあり、嗅覚障害ではカレーやコーヒーの匂いがわからなくなる事例が報告されているとのことでした。また、令和2年3月から7月下旬までの大阪府および富田林保健所管内の発生状況として、感染源不明患者の増加と陽性率の推移を説明して頂き、富田林保健所管内での発生は7月30日までに50例認められ、20~40歳代で60%占めていたとのことでした。この期間、保健所における対応としては電話相談の対応、ドライブスルー型PCR検査(5/1から5/31)115件実施。陽性患者確定時に患者の入院(療養)調整、移送、疫学調査を行い、その結果で濃厚接触者を決定し、健康調査とPCR検査の実施、入院患者の状況把握、退院後の保健指導、健康観察などを行っているとのことでした。次に感染予防について、COVID-19はエアロゾル、飛沫、接触で感染するため感染経路に応じた予防が必要で、エアロゾルに対しては換気とN95マスク、飛沫に対してはサージカルマスク、接触に対しては手指衛生、ガウン、エプロンが必要であるとのことでした。

最後に、今後は検査体制の拡充が必要で、保健所だけの検査数だけでは足りず、保健所を経由しない検査体制の拡充をはかる必要性があることと、新型コロナウイルス対策はこれから数年間続く可能性があり、全ての医療機関で疑い患者の診察に対応できる必要があるとのことでした。

調 整 日

8月分 9月8日(火)
PM3:00まで

9月分 10月8日(木)
PM3:00まで

9 月 の 予 定

- 1日(火)・休日診療委員会
- 7日(月)・会長副会長連絡会議
- 8日(火)・調整日
・学校医部会
- 9日(水)・救急災害医療委員会
- 11日(金)・理事会
- 14日(月)・訪問看護ステーション
運営委員会
- 23日(水)・学術講演会
- 25日(金)・広報調査委員会
- 26日(土)・あすか会会長会
- 28日(月)・広報調査委員会
(校正)
- 29日(火)・休日診療委員会
・感染症対策委員会



令和2年8月定例理事会

日 時 令和2年8月7日(金)

13:30より

場 所 医師会 大会議室 ZOOM会議

会長挨拶

報告事項

- 1) 10月よりロタウイルス予防接種が実施されます。
(感染症対策委員会)
- 2) 休診ではインフルエンザの検査はしない。
(休日診療委員会)
- 3) 令和2年度社会保険指導講習会について。
- 4) 令和2年度富田林市防災訓練が中止になりました。
- 5) 令和2年度あすか会は中止。
- 6) 大阪府医師会指定学校医制度にかかる単位取得状況について。

協議事項

- 1) 入退会の件
- 2) 令和2年度南河内圏域糖尿病地域医療連携推進検討会。担当國定先生に出席お願い。
- 3) 大阪府医師会医学会評議員の推薦について。
宮田先生
- 4) 令和2年度救急医療週間行事補助の件、委員会で検討する。
- 5) 休日診療所では唾液PCR検査をしないことで決定。
- 6) 富田林医師会70周年記念式典・令和3年新年会の中止。
- 7) 70周年誌は作成する予定です。

富田林医師会学術講演会

日 時：令和2年9月23日(水) 14:00～15:00

場 所：医師会 大会議室

【特別講演】

座長 明石整形外科クリニック 明石 健一 先生

『患者さんの自立を目指した

関節リウマチ診療』

大阪南医療センター 臨床研究部

部長 大島 至郎 先生

関節リウマチ(RA)の治療目標は患者さんのQOLの改善であり健康長寿である。この事は、疼痛管理、身体機能の維持・改善に依存するが、前提として安全に、社会的、経済的な側面も考慮して達成されることが必要である。近年新規治療薬の開発や治療方法の進歩によって、薬物療法による炎症のコントロールに関しては、より高いレベルで達成可能になったと言えるが、依然として充分とは言えない。さらに目標達成を目指すための要件はそれ以外に手術療法をはじめとして多岐に亘る。そのため、今日のリウマチ医療においてはチーム医療の構築が必須と考えられ、当院でもリウマチ医療の基幹施設として、院内、院外(地域医療連携)のチーム医療の構築に取り組んできた。

院内チーム医療の核となるのはリウマチ内科とリウマチ外科の連携である。当院では外来・病棟を内科・外科共通とし、症例検討会も一部共同で行っている。我々内科医には診断、薬物治療、合併症の管理、感染症の早期診断・治療の能力が要求されるが、同時に経過中に出現する機能障害を把握することも必要である。患者さんのADL低下の大きな要因として、下肢の運動機能低下・疼痛による歩行障害や骨折による機能低下が挙げられる。当院では“リウマチロコモチェック外来”を開設し、内科医が歩行障害をはじめ機能障害の認められた患者さんを抽出して気軽にリウマチ外科に紹介できるフローを作った。ロコモチェック外来ではリウマチ外科医が関節の画像的、機能的評価と装具の提案、外科的治療についての情報提供や計画を行っている。

患者さん自身にとって“患者さんの自立”は常に健康長寿を目指すうえでの指標であり、またご家族や社会にとっても望ましい目標である。今後とも我々は患者さんの自立を支える医療を考えていきたい。

*本会は生涯教育制度「1単位」が取得できます。(カリキュラムコード:19・61)

*大阪府医師会指定学校医認定研修の申請をしております。



富田林医師会学術講演会再開

去る8月20日(木)、病院駐車場から医師会館に歩くだけでもへたり込んでしまうような酷暑の中、ほぼ半年ぶりに医師会学術講演会が大会議室にて再開されました。三人掛けの机に一人ずつ座り、さらに前後の机を空けるくらいの十分すぎるほどのソーシャルディスタンスの中、座長に富田林病院・外科部長 辻江正樹先生をお招きして、富田林外科副医長 森総一郎先生より「肝胆膵領域の外科系疾患へのアプローチ」という演題で、刀禰先生の司会にて開催されました。

胆管・胆のう系疾患の症例をメインにお話頂きましたが、特に最近では消化器外科と消化器内科の垣根をなくした外科・内科合同カンファレンスを頻回に行い、患者さんの治療方針を決定するなど、我々開業医にとって非常に心強く感じられました。

コロナ禍の中、ぼちぼちと学術講演会も再開することによって今後ともますますのご参加の程よろしくお願い致します。(学術委員会)

新会員紹介



いまじょう医院

ゆきひろ
今城 幸裕 先生

富田林市向陽台4-22-1

TEL : 0721-29-7700

FAX : 0721-29-3700

平素より大変お世話になります。

令和2年6月1日より向陽台で「いまじょう 医院」を開院させていただきました。

私は平成23年に大阪医科大学を卒業し、同年、横浜市民総合医療センターで2年間研修しました。その後、大阪に戻り、卒業大学の麻酔科に入局し、手術麻酔、全身管理やペインクリニックを学びました。

少し早いタイミングでの開院ですが、教授、医局員、家族、父親、今城クリニックのスタッフ、富田林医師会などのご協力をいただき、なんとか開院することができました。

在宅訪問診療を始め、一般内科、ペインクリニック

の診療を行い、地域の各診療所や病院などと連携をとらせていただき、富田林の医療に貢献できるよう尽力いたします。

至らぬところが多々あり、医師会の先生方・医療機関のご先輩方には、ご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、何卒、ご鞭撻・ご指導よろしくお願い申し上げます。

*鉄道トリビア ~京阪電車物語その6~

次の一万円札の顔となる稀代の実業家、渋沢栄一が立ち上げ、その意思を継ぐがごとく数々のアイデアで時代の波を乗りきってきた京阪電車。今回は京阪中之島線と、それにまつわる未来への野望についてお話ししたいと思います。

京阪中之島線は、京阪にとって久しぶりの新線として2008年に天満橋～中之島間が開業しました。この地域は南北方向には地下鉄が何本もあるものの東西方向には鉄道がなく、当時中之島西部には阪大病院、ホテル、大阪国際会議場などの施設があり、国や大阪府・市が鉄道整備をすべきエリアとして検討していました。京阪が淀屋橋から西へ線路を延長すれば簡単そうに見えるのですが、地下トンネルの深さが地下鉄御堂筋線と同じであり、単純な延長はできません。そこで国・府・市と京阪で協議の末、天満橋駅から線路を分岐して、京阪本線の北側を並走して中之島西部まで至る現在のルートが選定されました。

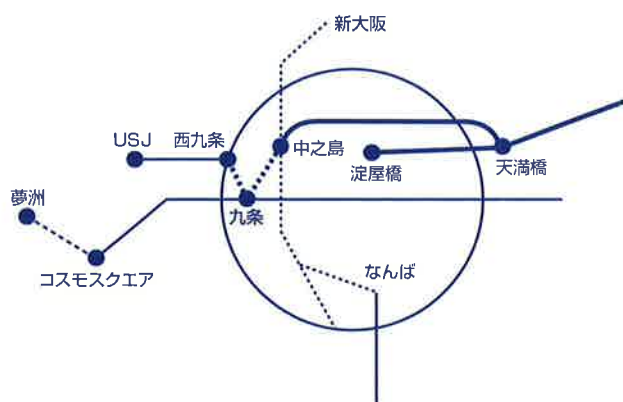
開業当初は中之島西部へのアクセスルートとして期待されましたが、実態は予想以上にふるいませんでした。ルートを北側にずらしたことで南北に走る地下鉄との連絡が悪い(歩く距離としては遠いうえに、一旦地上にでないと乗り換えられない)こと、阪大病院が移転したこと、その後の再開発が進まないことが原因です。開業当初は快速急行などの優等列車が多数運行されていましたが現在は普通しかなく寂しい限り。しかしこれまでもそうであったように、京阪はただでは転びません。この状況は近いうちに激変するかもしれないのです。

まず新大阪から関西空港への新しいアクセス路線

8月行事・会合

として建設が決まっているJR・南海のなにわ筋線。これが中之島駅を通ることになります。これにより関西空港から乗り換え一回で京都・宇治・伏見稲荷まで行くことができるようになり、インバウンド需要が見込まれます。逆に京都方面からであれば、中之島乗り換えで高野山まで行くことができ、これもインバウンド需要が見込めるのです。

そしてカギを握るもうひとつの構想が、2025年の大阪万博とそれに伴うIR(統合型リゾート)構想です。これらのできる夢洲へは現在地下鉄中央線の延伸が決まっています。京阪は中之島線を九条経由で西



九条まで延伸して、九条で地下鉄中央線に、西九条で阪神やJR桜島線と接続することを考えているのです。これにより夢洲への利便性が向上するだけでなく、USJへのアクセスもよくなることから、これらの事業が順調に進んでいけば中之島線は京阪にとってドル箱的存在となる可能性を秘めているのです。

しかし現在の時点ではIRの要となるカジノ建設はまだ決まらず、新型コロナウイルスの影響でインバウンドがいつ戻ってくるかも読めなくなっており、京阪の野望はまたもや潰えるかもしれない局面を迎えています。ですが数々の困難や挫折を乗り越えてきた京阪なら、いずれまたマニアをも驚かすアイデアでこの状況を打破してくれるのではないかと期待して、京阪電車物語を締めくくりたいと思います。(zenkun)



1日(土)・新型コロナウイルス感染症対策研修会
(すばるホール)

3日(月)・会長副会長連絡会議

6日(木)・調整日

・学術委員会

7日(金)・理事会

11日(火)

・事務局お盆休み

14日(金)

17日(月)・訪問看護ステーション運営委員会

20日(木)・学術講演会(大会議室)

21日(金)・広報調査委員会

・フォーラム委員会

25日(火)・広報調査委員会(校正)

26日(水)・Zoomの勉強会(大会議室)

27日(木)・Zoomの勉強会(大会議室)



○会員数(9月1日現在) 186名

A会員 95名 B会員 90名 C会員 1名

○入会 8月1日

島 悦子 B(PL病院 内科、血液内科)

○退会 なし

○異動 なし

広報調査委員会

委員長	齊藤 謙介	副委員長	森井 秀樹
委員	青山 賢治	天城 完二	植村 匡志
	江村 俊也	奥野 敦史	尾多賀雅哉
	遠山 佳樹	中村 元	藤岡 洋
	山本 善哉		